

本郷 地区

ささえあい、 だより

発行 本郷地区ボランティア協議会「ささえあいの会」

事務局・松本市社会福祉協議会 地域福祉課 TEL 27-3381 FAX 27-2239

・本郷地区生活支援員（本郷地区地域づくりセンター内） TEL 070-8684-8038

ささえあいの会とは

平成28年度に始まった本郷地区ボランティア協議会「ささえあいの会」は、本郷地区で活躍するボランティアを支え、安心して暮らせる地域づくりとともに進めることを目指しています。

自らの健康維持や仲間づくり、学習と研鑽を重ね、地域のボランティアが連携して本郷地区の活性化に協力することを目的としています。

ささえあいの会 会員になるには

会の目的に賛同する本郷地区内の個人及び関係する団体であれば、性別・資格・年齢・経歴に関係なくいつでもどなたでも入会できます。（会費は無料です。）

会員は、会でまとめてボランティア保険に加入します。（保険料は会で負担）

入会希望があれば、事務局にお申し出ください。

音楽療法でリフレッシュしよう♪

「本郷地区「ささえあいの会」研修会

令和6年10月29日（火）本郷地区ボランティア協議会「ささえあいの会」が主催された「懐かしい昭和の歌で認知症予防とリフレッシュ」に参加してまいりました。

会場は本郷公民館二階の大会議室。参加者は会員と私のような本郷在住者合わせて48名、講師は相澤東病院脳神経内科近藤清彦（きよひこ）先生、アシスタントの小沢さんの総勢50名。1時間の講座でしたが、近藤先生の指導でキーボード演奏に合わせ、参加者全員が昭和年代22曲の歌詞が印刷されたパンフレットを見ながら大きな声を出して歌いました。

時間の関係で22曲すべてを歌うことは出来なかったけれど、認知症予防とリフレッシュが出来た充実の1時間でした。

近藤先生も話しておられましたが、好きな歌を歌うことや想い出の曲を歌う音楽療法は大変良いことだと思いました。

私も歌うことは得意ではありませんが、久しぶりに楽しい時間を過ごせました。

ありがとうございました。

YF



ささえあい交流会

三才山小日向神楽にふれて

この神楽は、御射神社秋宮例大祭に奉納されている舞です。

江戸時代中期、

伊勢参りに行った住民が神楽と出会い、習得し持ち帰りました。

だんだん続けることが難しくなりましたが、

柳澤さんと松嶋さんの声かけで若い人が増えました。

よく響く唄声と

笛に合わせて、愛嬌のある雄と雌の獅子が、耳に止まる蜂を払ったり、

ササラの音ではねて、飢饉や疫病を追いかつ舞は、あたたかくてすばり

しかったです。 Y T



本郷地区「ささえあいの会」視察研修に参加して

JICA（ジャICA）海外協力隊訓練所（駒ヶ根市）と日本聴導犬協会（宮田村）の二つを見学しました。

海外協力隊は、開発途上国の要請に基づき（現在99か国）、協力隊員を派遣するODA（政府開発援助）の予算で実施されるJICAの事業です。

概要説明で印象的だったのは、訓練期間は73日間、そのうち70%が語学。年齢要件は20歳から69歳まで、派遣期間は2年とのことでした。

施設内を巡って目についたのは、英語・スペイン語と書かれた札が各教室に貼ってあり、外国人講師1人に生徒は5〜6人でした。

講演では、かつて隊員としてネパールの地方都市ポカラへ交通安全部門で派遣された小川まどかさん（伊那市出身）が、文化も死生観も違う国では、日本流を教えるのではなく、その国の人が自ら国民に指導ができるシステムづくりをすることが大切だ。交通事故で死者が出ない日常を目指す取り組みをしてきた。と体験を熱く話されました。

昼食は、訓練生と同じメニューで南米赤道直下の国エクアドルの鶏肉の煮込み料理「セコ・デ・ボジョ」を美味しく頂きました。

二番目の聴導犬協会は、施設が隣接する宮田村公民館で説明とデモンストレーションを見学しました。訓練を始めて3年目の2頭の可愛い聴導犬、介助犬が、障がい者の手助けをする様子を初めて見ました。可愛い仕草に参加者一同から思わず拍手と歓声が上がりました。

盲導犬はよく知られていますが、聴導犬は聴力を失った人の介助をする特殊な訓練を受けており全国では50〜60頭と数も少なく、また、寄付金によって運営がされていること、宮田村にそんな施設があることさえも知りませんでした。

今回の視察研修は、初めて見聞きすることばかりで、大変勉強になりました。 F K

